

萱瀨☆物語

大村市立萱瀨小学校

学校だより 第4号

令和4年5月13日発行 校長 高以良康弘

「やさしく」「かしこく」「たくましく」

ゴールデンウィークいかがお過ごしでしたでしょうか？

大型連休・家庭訪問も終わりました。家庭訪問では玄関先で短時間の訪問になりましたが、担任との情報交換はできたでしょうか。大変お世話になりました。新学期が始まって1か月が経過し、コロナ感染対策を行いながら学校生活もほぼ予定通りに進んでいます。

4月25日、火災を想定しての**避難訓練**を行いました。1年生にとっては初めての訓練です。非常ベルの音にびっくりしたかもしれませんが、みんな静かにすばやく避難することができました。避難の時に注意すべきこと、避難訓練は命を守る大切な学習であること等の話をしました。子供たちは真剣に訓練に取り組んでいました。

今後も火事が起こらないように、家庭でも十分にお気をつけください。



学校探検を実施しました！

4月27日（水）1・2年生が学校探検を行いました。2年生の案内を受けながら1年生が校内を探検して回りました。校長室にも、「学校探検で来ました。入ってもいいですか？」と元気よく挨拶をしてやってきた子供たち。

興味津々の顔つきで、「これは何ですか？」等と質問したり、「うわぁ写真がいっぱいだ。」等と反応したりしながら、校長室の様子を見学していきました。



校長室の窓から

「一笑一若、一怒一老」



以前の長崎新聞「水と空」の欄に、上のような言葉がありました。『精神科医で、ユーモアあふれる随筆でも知られた斎藤茂太さんがモットーとした言葉に、「一笑一若、一怒一老」がある。日に一回笑えば、一つ若くなり、一回怒れば、一つ老いるという意味で、斎藤さんの造語だという。…』

さらに、文の中ほどには、こう書かれていました。

『…ストレス社会の中で、人はイライラを募らせ、笑うどころかささいなことにも怒りっぽくなっている。心を穏やかにするにはどうすればよいのか。』

斎藤さんは、あることばを常に口にすることを勧めている。それは「ありがとう」…』そして、最後は、こう締めくくられていました。

『…「笑う」ことと、心からの「ありがとう」。それが若返りの秘訣だとしたら、すてきなことではないか。』



子供と保護者と教職員、そして地域の方々の中に、「笑い」と、心からの「ありがとう」がますます響き合う萱瀨小学校をみんなで創りましょう。